〒581-0844　大阪府八尾市福栄町1丁目12番地 介護老人保健施設スローライフ八尾
企画・編集・発行　スローライフ広報委員会　　2007(平成19年)1月12日　　第8号スローライフ通信

スローライフ通信

行事報告

クリスマス会

一二月二〇日水曜日、当スローライフ八尾でクリスマス会が行われました。入所者様、デイケア利用者様、それに家族様を入れると百名を越す会になりました。

可愛かったのはあひる保育園の園児による演技披露です。「七歳までは神のうち」という言葉がありますが、とても可愛い天使のような神様達の演技でした。介護の一部の世界では「八十過ぎたら生き仏」という言葉があります。生き仏様達を楽しませる為に天使のような神様達が降り立った、と考えるとロマンチック過ぎるでしょうか。良いクリスマス会になったと思われます。中にはサタン(悪魔)達も紛れ込んでいたようですが。左端写真参照。

介護通信教室

三回シリーズ
～認知症の介護～

認知症の介護、三回シリーズの最後、今回は問題行動とその対応です。問題行動と呼ばれているものの原因を介護の考え方で捉え、その対応を考えます。

認知症の為に失禁してしまう原因は大きく分けて二つあります。一つ目は尿意感覚の識別ができない、というものです。尿意・便意はあるものの認知症のため識別できず、それを違和感や切迫感としてのみ捉えてしまい、漏らしてしまいます。対応としては周りの人が本人のかわりに尿意・便意を察知するようにします。落ち着きがなく、前の排泄から二、三時間たっていたらトイレに誘導するようにします。尿意のサインは人によって多様なのでよく観察して下さい。

二つ目はトイレの場所が分からない、どうしていいのか分からないというものです。尿意の識別はできてもトイレの場所が分からない、またはトイレに行けても排泄の仕方が分からない、そのためウロウロしているうちに漏れてしまうというものです。対応は尿意の識別は出来るので、トイレの場所を本人に分かるような表現で示してあげます。周りの人も「尿意を感じたら言ってね」等、すぐにトイレへ誘導できる雰囲気を作ることが大事です。

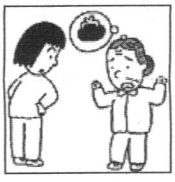
失禁した時に「だめじゃないの」とか「お漏らしして子供じゃないんだから」等と叱るのは最悪なのでやめて下さい。失禁は本人にとってもショックですし、介護者にとっても負担が重くかかります。失禁後の後始末に力をいれるより、失禁させないための努力に力をいれると考えましょう。

失禁の原因と対応

徘徊の原因と対応

徘徊には大きく分けて三つのタイプがあります。一つは使命感や切迫感を持った目的のある徘徊。自分の過去に戻ったり、自分に割り振られた役割を果たそうとするタイプです。男性なら仕事、女性では育児や家事などをすると言ってどこかに行こうとします。説得しても徘徊を止めさせる効果はありません。落ち着いてもらうには、本人の気持ちに共感を示し、しばらく徘徊に付き合い、理由をつけて延期してもらう、またはタイミングをみて他の事に興味を振り向けます。

「家に帰らなければいけない」と言う人は「家」を物理的な家というよりも精神的な「家」として捉えています。私達にもそうであるように、「家」とは本人が落ち着ける場所＝自分の居場所のことです。ですから、家に帰るという人に対して冷たく「帰れないのよ」とか「もうあなたの家はなくなったのよ」等と言うと、老人を精神的に追い込み、別の問題を誘発させることになりかねません。施設から帰るという方には施設の中に居場所と安心できる環境を作ることが問題解決に必要だと認識しなければいけません。



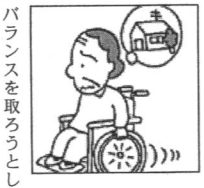
二つ目は自分の部屋やトイレが分からない為にウロウロする徘徊です。「目的がある徘徊」の人が確信に満ちた顔をしているのに対して、こういった方々は「不安と困惑の表情」をしています。こういう方には安心できるように声かけし、またどこに行きたいのかを聞き誘導してあげて下さい。居室に大きく名前を書いたりして目印をつけ、ここだと教えるようにします。

三つ目は認知症老人が歩いているだけで「徘徊」と決め付けている徘徊です。ただの散歩だったり、人恋しくて夜に話所をのぞいたりする事があります。そういったことまで徘徊と呼んで特別視しないで下さい。

被害妄想の原因と対応

妄想とは非合理的で非現実的なことを固く思い込んで訂正できない精神状態のことを言います。認知症老人の原因としてよくあるのは、「心理的負担解消」の為の妄想です。自分が介護されるだけの存在になり、周りの人々に迷惑をかけていると感じて毎日を過ごしていると、介護される自分は加害者になります。介護者は被害者です。その関係に耐えられなくなって、加害者と被害者を逆転させて

バランスを取ろうとします。熱心な介護者に対して「嫁が財布を盗んだ」とか「何かを企んでいるな」と思い込み自分を被害者にします。このタイプは介護者と老人との関係が一方的で、狭い人間関係にある場合におきやすくなります。これには人間関係を広げることと、介護者との関係を相互的にしていくことが必要です。



他には「老化拒否型」があります。自分が物忘れをするほど老化していることを認めたくないために、誰かのせいにしたり仲の悪い人を泥棒呼ばわりしたりします。対応としては共感しながらなにかできる役割をもってもらえるように介護(援助)することです。

もう一つ「被害者利得型」があり、これは自分が被害者となる事で周りの関心をひこうとするタイプです。対応は孤独にさせないように話をじっくり聞く時間を作ったり、レクリエーションで主役にしたりといった介護(援助)をします。

認知症にはチームケア

認知症の為に様々な問題行動(と呼ばれるもの)を起こす肉親を、子供達だけで介護していくのは困難です。「叱らないで受容が大事」と言われても、家族の方はずっと本人をみてきているので中々そうはできません。それは仕方のないことだと思います。私達も自分の親がボケたら仕事で接しているようにはできないかもしれません。頭では分かっているのだけれど、心では・・・といった感じです。だからこそ認知症の介護には家族以外の人の手助けが必要です。

ですが、私たち介護職はご家族の真似はできても、家族に代わることはできません。難しいですが、悪感情で接しても認知症老人を良くすることはないのだと認識し、ご本人様が見ている世界を頭から否定せず、守っていってあげることが一番良い結果を生むと信じることです。そういった「テクニック」を家族様にも持って頂ければ、ご本人と家族、お互いが楽になれるのではないでしょうか。

紙面の都合上、限られたケースしか紙面には載せられませんでしたが、接し方、考え方は共通しているものがあります。その共通項を掴んで頂ければと思います。認知症についてもっとよく知りたいというご家族様はお気軽に当施設職員にお聞き下さい。責任をもってお応えします。

※今回の記事は「新しい介護」を参考にしました。

BOOK REVIEW

『痴呆論』

三好春樹　著

この本の特徴は、痴呆症を従来の分類(アルツハイマー型、脳血管性型等)と違う葛藤型、回帰型、遊離型の三タイプに分けている所です。耳慣れないタイプわけですが、実際に自分が知っている認知症老人をこのタイプで考えてみると、けっこう当てはまっているから面白いです。

問題行動への対処法はもちろん、認知症老人を看る目を養うには良い本だと思われます。

施設紹介

有料老人ホーム

介護付有料老人ホームは、ホームが介護スタッフや看護スタッフを雇い、そのスタッフが介護を入居者に対して提供しています。重度の要介護状態になったときに、こまごまとした介護を事前の介護計画(ケアプラン)で対応することは困難です。介護付有料老人ホームのメリットは、どれだけ介護を受けても一日の介護費用はかわりませんので、重度の要介護者には安心できるシステムと言えます。しかし、外部の介護サービスを使うことができないデメリットもあります。介護サービスの質、量ともにその老人ホームのキャパシティが全てになるので注意すべき所です。

入居検討時の注意点は、体験入居を可能な限り長くする。型にはまった美辞麗句を述べた宣伝をしているホームは内容がつりあっていないと考える。病気で病院受診になったときの対応を確認しておく。苦情処理をどうしているかの確認も必要です。入居率が良くても、生前退去者数が多い有料老人ホームは要注意と考えてください。

建物の豪華さや綺麗さは副次的なものです。目に見えないサービスが受けられそうかという視点で考え、入居を決めてください。

お知らせ

☆介護計画について☆

新しい年が始まり、新たな気持ちで今年を過ごしていきたいと考えています。さて、今後のケアプランについてご家族様とご相談する機会を持ちたいと考えています。お声をお掛けすることがあると思いますので宜しくお願い致します。

☆再度のお願いです☆

食べ物の差し入れについて、当施設は家族様同席で一階食堂にて召し上がっていただく事を原則としております。おやつなどの残りは、必ずお持ち帰りください。夜間は職員が極端に少なく、また昼間であっても目の届かないことがあります。職員が気づかず、食べ物を喉に詰めた場合、最悪のことも予想されます。また、危険は本人様だけに留まらないこともあります。先日も飲み込みの力が弱くなった利用者様に他の利用者様が食べ物を配るということが起きておりました。職員は皆様を注意して見ていますが、見えないところで喉に詰めたり、糖尿病の方がお菓子を食べたりされると把握できません。

どうかご理解頂き、食物は居室内に残していかないようにお願い致します。

☆通信について感想☆

スローライフ通信についてのご感想をお聞かせ下さい。今後の通信作りの参考にさせて頂きます。また、介護通信教室、施設紹介等で取り上げてほしいテーマがありましたらお聞かせ下さい。